

漏れ落ちる水滴の音。さほど大きくないがどこか滑稽で人を小馬鹿にしたような音である。

規則正しい感覚をおいて数回落ちる。この音はずっと続くのだろうかと思いはじめて……

Z「聞こえますか？（沈黙、誰も答えない。落ち続ける小さな水滴の音。またちよつと耳を傾ける）聞きましたか？（同じく水滴の音）あきれたな……（おなじく水滴の音）全くあきれたもんだ……プススス！……プススス。（傍らにいる誰かを呼んでいる）プススス！（だんだん強くやる。聞かぬ噴出泉のように唾を飛ばしているにちがいない）プスス

ス！（ぶつぶつという声が答える）プススス！（だんだん強く唾を飛ばす）プススス！（ぶつぶつという声が強まる。ついで沈黙）こんなことって！（水滴の音だけが沈黙を破る）エツプ！……エツプ！……エプー……ウー……ウ……ウ……

ウ……もしもし！（沈黙、水滴）こいつ、口が利けないのかな？ とにかく死ぬまでこんなことしちやいられないよ、（大声で呼ぶ）ねえ！ 起きて下さいよ、あんまりだ！

G「えエ？ 何だって？ どうかしましたか？」

Z「眠ってばかりいるんですもの、やりきれないですよ」

G「茫然として）ええエ？ 何ですって？」

Z「眠ってないで聴いたらどうです！」

G「聞くなって何を？」

Z「あれを！」

物音一つしない。水滴は止まっている。

G「一寸たってから）あれって何です？」

Z「しっ！」

同じく完全な静寂。

G「（声をひそめ）何も聞こえない……」

Z「（水滴は止まっている）いいから黙って！」

G「（同じく）何か聞こえるんですか、あなたは？」

Z「（同じく）静かに！」

完全な静寂。

G「（声をひそめて）おかしいね……私にはまるっきり何もきこ

えないが……」

Z 「声を上げ）畜生！ 去いっちまいやがった！」

G 「声をひそめて）誰がです？」

Z 「（普通の声で）あなたが目を覚ましてくれたおかげで聞こえなくなりましたよ！」

G 「（普通の声に戻る、怒って）あんたの話はまるっきり訳が解らん。眼を覚ましたら聞こえなくなるような音を、聞かせるために人を起こすんですか？ 白状なさい、本当は……」

Z 「聞こえたんです、つまり、私には。ポタツ、ポタツ！ ポタツ、ポタツ！ それがあなたが目を覚ましたとたんもういわなくなっただんです！」

G 「ポタツ、ポタツって？」

Z 「そう、ポタツ、ポタツ……いや、正確にはポタツ、ポタツ……じゃなく、ポタツ……それからポタツ……また……ポタツ……それからまた……ポタツ……また……ポタツ……実際に長くやられたらたまらないですよ！」

G 「そりゃそうだ、しかし何の音です、ポタツ、ときて、またポタツ、解らんな」

Z 「雫が落ちるような音ですよ」

G 「何の雫なですって？」

Z 「雫が落ちるような」

G 「何の雫？」

Z 「そんなこと知るもんですか、何の雫だなんて！ 何の雫だって知っちゃいない！ 肝心なのはポタツ、ポタツって音だ！」

G 「（間……不安気に）それで私を起こしたんですか？」

Z 「そうですね……あなたにも聞いてもらおうと思って。だのにあなたが耳をすますや聞こえなくなっちゃったんです。全く訳が解らない！」

G 「はっきり言っていていいですか？」

Z 「どうぞ」

G 「子供じみた事はやめにして、あかりをつけた方がいい」

Z 「だってそいつは無理だ！ どこにあかりがあるのか解らないのに！」

G 「もう一つ言わしてもらえますか？」

Z 「どうぞ、どうぞ」

G 「あなたの雫とやらはね、あなたに聞いてもらいたかったんで、私じゃないんですとき」

Z 「私の雫？」

G 「あなたの雫です」

Z 「私には聞いてもらいたかったが、あんたじゃ嫌だった？」

G 「その通り」

Z 「私を馬鹿にしているんですか？」

G 「あなたほどじゃないですよ」

Z 「ああ、そんな風にとったんですか……私はただ雫の落ちる音を聞いたんで、おや雫だ、起こしてこの人に聞かせようと思っただ。これがその報いってわけか！ もう雫が聞こえないからって、それが私の罪ですか？ え、私の罪だって言うんですか、そんな、不当ですよ！」

G 「私の知ったことですか！ それよりあなたも眠ればよかったです。雫なんてものはね、人間とおんなじだ、誰も聞いていないと思えばだんだんしなくなりますよ」

Z 「あなたちゃんと聞こえるんですか？」

G 「聞こえてるかだって？」

Z 「つまり耳は確かですかって聞いているんです。（声を高め）別の言い方がよろしければ、少し難聴気味じゃないんですか？」

Z 「私が？ 馬鹿な、まるで尖った針ですよ、尖った針みたいな鋭い聴覚でね……向い側の歩道にとまった蝸がよの羽音だって聞こえるでしょうよ、つまり……」

G 「蝸なら多分ね。ブズブズ、ブズブズ、ブズブズ、って音ですからね。けど雫はポタツ、だ。ブズブズとポタツの間には知覚上の相違がある。一方は衝突音だし、他方は浸透音しんとうおんですからね」